



# かわしま

mail:y3kawash@edu.city.yokohama.jp

http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawashima/

学校だより 5月号  
平成23年4月28日  
横浜市立川島小学校  
校長 小池 慎一  
TEL 371-0757  
FAX 381-7248

## よ つ ぶ いちご 四粒でも苺

学校長 小池 慎一

今年ことしの桜さくらは、ふだんとしの年よりも一週間ほど遅れて満開まんかいになりました。

4月も終わりに近づき、川島小学校名物の校庭がわしましょうがっこうめいぶつの桜さくらは、鮮やかな緑あざみどりの葉桜はざくらになりました。

さて、春はるの果物くだものと言えば苺いちごが代表的なもので、今では12月だいひょうてきから4月頃いままでが出荷がっのピークがっごろですが、私わたくしが子どもこの頃ころは、5月がっの果物くだものでした。

そんなことを考えていたら、以前いぜん、人ひとから聞いたこんな話はなしを思い出おもしました。

「4粒よつの苺ぶがあります。5人ごにんで仲良く食べるには、どうしたらよいでしょう。」

算数さんすうの問題もんだいのようにも思えます。

単純たんじゆんに計算けいさんをすると、 $4 \div 5$ です。答えこたは「一人分ひとりぶんは、五分ごぶんの四粒よつ。」ここまで計算けいさんしたところで、五分ごぶんの四粒よつって、実際じっさいにはどうしたらいいのだろう…とおもうのです。

4つの粒つぶをそれぞれ5等分とうぶんして、一人ひとりがそれを4個よずつ食べると、うまく分けたことになり  
ますけれど、何だかなあ…とおもうのでした。

誰か一人だれひとりが、「自分じぶんはいるから、残りのこの4人にんで1粒つぶずつ食べたら？」というのも、答えこたとしてはあるのかも知れません。

では、誰だれがその「食べない」一人ひとりになるのでしょうか？

くじ引きくじで決める、じゃんけんじゃんけんで決めるということになるのでしょうか。

でも、食べられない誰だれかがいることになります。それは、本当に「仲良く」なんでしょうか。

そんな様子ようすを見ていた優しい大人やさおとなが一人登場ひとりとうじようします。一粒ひとつぶの苺いちごを持っていて、「これを入れ  
ると、合計ごうけい5粒つぶになるから、一人1粒ひとりつぶずつ食べられるでしょう。」というのです。

これは、『足りないから、もう1個こ買ってくる（増やす）』という考え方かんがです。

そんな時とき、一人の子供ひとりこが発言はつげんします。

「ねえ。これジャムにしない？ジャムにすれば、何人なんにんになっても食べられるよ。」

どれが、正解せいかいだということでもないとおもいます。

どれもみな、正解せいかいではないかも知れません。

現実げんじつの世界せかいの中では、もともと正解せいかいなんてないのだと思うのです。

大切たいせつなのは、急いそいで正解せいかいを追い求めることではなく、時間じかんはかかっても、みんなちえで智恵だを出し  
あ合あっていくことなのではないかと思おもうのです。

